

法政大学キャリアデザイン学部におけるキャリアアドバイザーの取り組みと活動について

太田, 千秋 / 上原, 加津美 / 吉川, 由里子 / 島影, 義和

(出版者 / Publisher)

法政大学キャリアデザイン学会

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

生涯学習とキャリアデザイン / 生涯学習とキャリアデザイン

(巻 / Volume)

4

(開始ページ / Start Page)

169

(終了ページ / End Page)

178

(発行年 / Year)

2007-02

(URL)

<https://doi.org/10.15002/00004376>

〈報告〉

法政大学キャリアデザイン学部におけるキャリアアドバイザーの取り組みと活動について

法政大学キャリアデザイン学部キャリアアドバイザー 島影 義和・太田 千秋・吉川 由里子

法政大学キャリアデザイン学部キャリア相談アドバイザー 上原 加津美

1. はじめに

法政大学キャリアデザイン学部は2003年4月の開設時から学部独自にキャリアアドバイザーを配置している⁽¹⁾。キャリアアドバイザーは学部学生のキャリア形成支援を担当する学部専属のスタッフで、学習支援・進路支援のほか学生が直面する様々な問題や悩みに対する相談業務を担当している。学部開設から3年半を経過し、学生も1年生から4年生まで全学年が揃ったことから、2005年4月から2006年9月までの1年半のキャリアアドバイザーの取り組みを振り返り、課題を明らかにすると共にこれからの方向性を探ることとしたい。

なお、本稿は「個別相談業務」を上原、「履修相談会」「各種セミナー」を太田、「進路支援」を島影、「キャリアニュース発行」「学生自主活動の支援・育成」を吉川が主に資料をまとめ、最終的に島影が調整した。

(1) キャリアアドバイザー制度

キャリアアドバイザーは、複数の教員が担当するキャリアアドバイザー制度運営委員（2006年度は5名）と共にキャリアアドバイザー制度運営委員会を構成し、その委員会の決定に従って各種の学生支援活動を実施している。支援活動の内容は学部決定に基づくものもあるが、活動の多くはキャリアアドバイザーが日頃学生と接するなかで企画した自主的なものである。

キャリアアドバイザーは社会人としての経験や

学生を支援する能力が重視される。身分は嘱託職員（1年契約）であるが、学部内では専門職として認識されており⁽²⁾、現在4名が在籍している。

(2) キャリアアドバイザーの性格と役割

キャリアアドバイザーの役割は、受動的な役割と能動的な役割に分けられる。受動的な役割を果たす業務としては個別相談が代表的業務であり、能動的な業務としては各種セミナーの実施や学生の自主活動の支援など、学生のキャリア形成に役立つ行事の開催や学生への働きかけを行うことである。

学生にとって、教員は学問を指導してもらう“先生”であり目上の存在である。また、学務事務職員は卒業までの事務一切を担当してくれる存在である。それに対してキャリアアドバイザーは、学業以外のことについても学生の相談に乗り、一緒に考え活動をサポートしてくれる身近な存在である。キャリアアドバイザーは仲間・先輩・親などのような相談相手だったり、現実的なノウハウを提供してくれる身近な社会人であったり、時には“駆け込み寺”やセーフティーネットであったりもする。

キャリアアドバイザーには学生と同じ高さの目線が必要とされることもある。その点で、教員や事務職員とは若干異なる態度や学生対応が求められる。キャリアアドバイザーは学部の中で教員と学務事務職員の間位置する独自の機能を持つ存在であり、教員と学務事務職員と並んで学生を

支える柱の一つと考えられる。ここにキャリアアドバイザーの専門性があり、存在意義があるといえる。

2. キャリアアドバイザー業務の種類と実施状況

(1) 業務の種類

キャリアアドバイザーが担当する業務は、学生をサポートする業務がその大半を占めている。現在、キャリアアドバイザーが担う年間業務の中で柱になるものは、「個別相談業務」「履修相談会」「入門ゼミ合宿」「進路支援」「キャリアニュース発行」「各種セミナー」「学生自主活動の支援・育成」の7業務である。その他にキャリアアドバイザー自己管理を行うための業務等がある。

(2) 実施状況

「個別相談業務」を除く、キャリアアドバイザー業務の2005年度（2005年4月～2006年3月）における1年間の実施状況は〔表1〕の通りである。

3. キャリアアドバイザー業務の内容

キャリアアドバイザーの主要7業務の業務内容・特徴・実施状況・課題・留意点等は以下の通りである。

(1) 個別相談業務

①相談時間

相談は月曜～土曜の10時～18時に随時応じている。また、社会人学生など夜間主の学生のニーズに対応して、週1～2日は20時まで相談に応じている。

〔表1〕キャリアアドバイザーの年間業務

年 月	実 施 業 務 ・ 支 援 業 務 の 内 容
2005年4月	教員合宿（1～2）、新入生オリエンテーション①（5）、履修相談会①（6～21）、入門ゼミ授業廻り①（11～14）・必修授業訪問②（18）〔新任アドバイザー紹介〕、入門ゼミ合宿①（23～25）
5月	演習授業訪問③（12～14）〔新任アドバイザー紹介・セミナーPR〕
6月	進路ワークショップ実施③（13～14、20～21、27～28）、オープンキャンパス（19）
7月	進路ワークショップ実施③（4～5、26～29）、留学生前期試験相談会（5～7）、オープンキャンパス（31）
8月	オープンキャンパス（26）
9月	—
10月	国際交流サークル活動（4～6）、オープンキャンパス（9）、入門ゼミ集中授業①（16）
11月	資格セミナー実施①②（14～15）、国際シンポジウム支援（19～20）
12月	国際交流サークル活動（4）、留学セミナー実施①②（13）、留学生後期試験相談会（20～21）
2006年1月	国際交流サークル活動（21）、面接セミナー実施③（24）
2月	面接セミナー実施③（16）、留学生情報交換会（28）
3月	面接セミナー実施③（9、22）、入門ゼミ事前合宿①②（15、16）履修相談会ピアアドバイザー研修①②（27、29）

〔注〕（ ）は実施の日付、○印の中の数字は対象学年を示している。

法政大学キャリアデザイン学部におけるキャリアアドバイザーの取り組みと活動について

〔表2〕学年別相談実績

a.2005年4月～2006年3月相談件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
1年生	27	12	7	3	1	14	9	6	7	9	4	6	105
2年生	14	12	6	3	2	5	7	7	12	12	4	3	87
3年生	17	19	24	25	4	19	30	16	28	38	55	58	333
合計	58	43	37	31	7	38	46	29	47	59	63	67	525

b.2006年4月～2006年9月相談件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計
1年生	19	4	12	15	1	11	62
2年生	21	8	18	15	4	13	79
3年生	20	15	24	27	4	17	107
4年生	60	29	26	13	5	24	157
合計	120	56	80	70	14	65	405

②相談件数

1年生から3年生までの在籍であった2005年4月から2006年3月までの1年間、及び、4年生までの全学年が揃った2006年4月から2006年9月までの半年間の学年別相談実績は〔表2〕の通りである。

③相談内容

- a. 相談は次のような内容に分類できる。(〔 〕内は主な項目)

学習相談〔レポート・試験等〕、履修相談〔科目・単位・時間割等〕、就職活動相談、進路相談〔就職・進学〕、資格相談〔どんな資格があるのか・取った方が良いのか等〕、その他相談〔留学、自主活動、学生生活(アルバイト・住居等)、人間関係(友人・親子)、メンタル等〕

- b. 内容別の相談件数は〔表3〕の通りである。

④キャリアアドバイザーの相談業務の特徴

キャリアアドバイザーは、“何でも相談窓口”として相談内容を限定せずに学生に対応してい

る。そのような対応をおこなうことによって、学生は迷わずに相談ルームに足を運べるようになる。従って、キャリアアドバイザーは学生の相談を内容の如何に拘わらず、まず受け止めることが必要である。相談内容が一見、履修や就職活動に関するものであっても、対人関係や性格などの別な

問題が関係していることもあり、時には他の学内組織と連携して慎重な対応を行うケースもある。

こうした3年半にわたる相談窓口の対応の実績と、相談内容が守秘義務に守られることが周知され、現在では学生の間に相談先としての認知がされてきている。就活を終了し内定先が決まった学生が就職後のキャリアの相談に來たり、女子学生が結婚・出産・子育てを含むキャリア形成について相談に來るなど、キャリアデザインを学ぶ学生らしい相談も多い。

学生が活用できる学内の相談機関として他に「学生相談室」があるが、本学部のキャリアアドバイザーの相談業務との相違は主に次の二点にある。

・学生相談室の扱う相談の範囲は、学生生活全般からメンタル面まで幅が広く、スタッフには臨床心理士や精神科医が含まれる。それに対して、キャリアアドバイザーの相談範囲は、学業を中心にした学生生活に関するものである。

・学生相談室は全学部生を対象にサービスを行うのに対して、キャリアアドバイザーはキャリアデザイン学部の学生のみを対象としている。

〔表3〕月別相談内容

a.2005年4月～2006年3月

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
学習	3	7	14	10	0	0	5	3	4	2	0	0	48
履修	34	3	0	3	0	22	4	2	8	2	2	5	85
就職	0	8	11	8	4	6	21	15	26	35	57	58	249
進路	10	16	5	6	0	2	1	1	2	5	0	0	48
資格	11	3	5	1	0	4	3	1	3	3	1	0	35
その他	0	6	2	6	3	4	12	7	4	12	3	4	60
合計	58	43	37	31	7	38	46	29	47	59	63	67	525

b.2006年4月～2006年9月

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計
学習	2	3	3	6	0	0	14
履修	29	2	4	3	1	38	77
就職	56	26	30	21	5	10	148
進路	7	7	4	4	1	0	23
資格	15	5	4	2	0	1	27
その他	11	13	35	34	7	16	116
合計	120	56	80	70	14	65	405

ンが出来てきている。

②実施状況は次の通りである。

a. 履修相談会の目的

- ・新入生の履修に関する不安・疑問を解消する。
- ・新入生が学部にも早く溶け込めるようにする。
- ・上級生が新入生の手助けをすることで、学年間交流が行われ、学部の内容がより伝わりやすくなる。

b. 実施日時

- ・2005年度：4月6日～4月21日の間の10日間。時間は12：40～17：00（昼間主の学生向け）および18：00～21：40（夜間主の学生向け・2日間のみ）
- ・2006年度：4月6日～4月20日の間の9日間。時間は12：40～16：40（昼間主の学生向け）および17：00～19：00（夜間主の学生向け・2日間のみ）。留学生向けは11：30～13：30（1日間のみ）。

c. 相談者数（延べ数）

- ・2005年度：231名
- ・2006年度：238名（留学生向けを除く）

d. ピアアドバイザー数

- ・2005年度：24名

⑤当面の課題

キャリアアドバイザー側では他の業務処理時間を確保することとの兼ね合いから、予約制にするかどうか（現在は随時制と予約制を併用）、相談時間を限定するか（現在は目安を1時間としている）、メンタル的な問題にどこまで関わるか、相談が立て込んだ場合の相談場所の確保をどうするか等の課題がある。

(2) 履修相談会

①発足経緯

この相談会は第2期生（現3年生）の発案によって実施され⁽³⁾、年々盛んになり進化してきているイベントである。当初、昼間の学生向けだけだったものが、夜間授業を主に選択する学生（社会人など）向けや留学生向けなどのバリエーショ

〔表４〕履修相談会への参加動機（アンケートによる／複数回答可）

参 加 動 機	2005 年度		2006 年度	
	件数	%	件数	%
1. 基礎科目・専門科目の履修についてわからない/不安があった	209	41.9	199	46.1
2. 教職科目の履修についてわからないこと、不安なことがあった	84	16.8	65	15.1
3. 資格科目の履修についてわからないこと、不安なことがあった	39	7.8	19	4.4
4. 大学生活についてわからないこと、不安なことがあった	71	14.2	75	17.4
5. キャリアアドバイザーとの個別相談の予約がとれなかったから	3	0.6	2	0.5
6. キャリアデザイン学部の先輩と話がしてみたかったから	79	15.8	58	13.4
7. 友達に誘われたから	12	2.4	11	2.6
8. その他	2	0.4	3	0.7
合 計	499	100.0	432	100.0

〔表５〕履修相談会に参加した感想（アンケート結果）

項 目	2005 年度	2006 年度
1. 参加してよかった	218	217
2. 時間の無駄だった	0	0
3. どちらともいえない・無回答	2	4
合 計	220	221

・2006年度：29名

った (27)、また相談したい (30)
等

e. 履修相談会への参加動機：〔表４〕参照

f. 履修相談会に参加した感想

・質問：「参加してよかったか？」（選択回答/人）〔表５〕参照

・自由記述：参加した感想・意見など（カッコ内は人数）

2005年度：先輩に相談にのってもらってよかった (47)、不安が解消できた (20)、ためになった (19)、履修方法が理解できた・解決できた (14) 等

2006年度：時間割作りに役立った (92)、先輩が親身になってアドバイスしてくれ不安がなくなった (56)、先輩の話が聞けてよかった (51)、とてもわかりやすく話しやすか

③履修相談会実施のメリット

履修相談会は、上記〔表４〕〔表５〕にあるように新入生に強いニーズがあり、そのニーズに上級生が親身になって応えることによって、新入生が高い満足度を得ている。新入生が不安を払拭し学部に早く溶け込めるようにすること、および、学年間交流を活発にして学部の内容をより伝わりやすくすること、という履修相談会の目的は達成されており、大きなメリットがあることがわかる。

この履修相談会はキャリアアドバイザー主催のイベントであるが、その主役はピアアドバイザーと呼ばれるボランティアの学生達である。ピアアドバイザーは2・3年生で自主的に応募してきた学生達が担当する（定員オーバーの場合は抽選に

より決定する)。学生にとって履修相談会は自らが自主的に動くことを学ぶだけではなく、新入生に対する履修相談を行うことによって、キャリア相談の実践・体験の場となるというメリットがある。それは本学部のキャリア教育が目指す内容のひとつである、「他者のキャリア形成を支援する」機会を持つことにも繋がっている。

履修相談会は、上級生と下級生の縦のつながりや社会人学生の横のつながりの形成に役立つだけではない。履修相談を受けた新入生は、その受けた恩恵やメリットを知って翌年のピアアドバイザーに応募する、という好循環が生まれている。

キャリアアドバイザーの役割は、ピアアドバイザーの募集・選定と履修相談会の運営、ピアアドバイザーに対する研修の実施である。このイベントはキャリアアドバイザーにとって、12月の募集開始から4月の実施までかなりの期間にわたるエネルギーを必要とする業務である。その一方で、ピアアドバイザーに対して実施する研修を通じて、学生にカウンセリングの初歩を教えるという経験を得る機会にもなっている。

(3) 入門ゼミ合宿

①合宿の性格

入門ゼミ合宿は、1年生の必修基礎科目である「入門ゼミⅠ」の授業の一環として行われる。入学直後の4・5月頃に実施されるオリエンテーリングを兼ねた2泊3日の合宿で、一部の業務多忙の社会人学生を除いて1年生は全員参加する。

②キャリアアドバイザーの役割

この合宿では、サポーターとして2年生の学生がボランティアで参加している。サポーターは、入門ゼミ合宿担当の教員の指示に従って1年生の学習活動を支援する役割を担っている。

キャリアアドバイザーの役割は、担当教員に協力してサポーターが動きやすいように支援を行うことと、合宿中に開催されるセミナーの1つを講師として担当することである。この業務では、キャリアアドバイザーは教員に近い役割を求められ

ているともいえる。

(4) 進路支援

①進路支援の内容

進路支援は卒業後の進路選択をサポートする活動である。具体的な進路としては、企業・公務員・教員等への就職、起業、大学院進学などの道があるが、大半は企業への就職を選択するために、就職活動支援に最も比重がかかることになる。更に近年は低学年のうちから就職活動を意識している学生が増えており、自分の進路選択にからめて相談に来る学生も多い。

②就職活動支援

就職活動に対する支援は、個別相談による個々の指導と、セミナーやワークショップ実施などのグループ単位の指導を行っている。個別相談における就活相談の状況(件数)は上記3.(1)③に記載のとおりであるが、個別相談業務の中で占める比重は大きい。

③キャリアアドバイザーの就職活動支援の特徴

就職活動を支援する学内組織として、全学部生を対象としたキャリアセンターが設置されているので、学部独自の就職活動支援としては別のアプローチが求められる。そのアプローチの1つ目は、単に就職活動のハウツーを教えるのではなく、ライフキャリアのなかで重要な部分を占める“働く”ということについて、長期的かつ広い視野から考えるということである。本学部では、学生は入学時からキャリアについて学び、考えてきているのでその延長上の就職活動支援という形になる。

具体的なグループ単位の指導として、2005年度は3年生の前期に「進路を考える」というワークショップ形式のセミナーを開催した(4回シリーズを3回実施)。また、後期にはゼミ生の要望に応じて、ゼミ単位での面接セミナーなども実施した。2006年度前期は「就職活動準備ワークショップ」という名称でセミナーを実施(3回シリーズを4回実施)し、加えて、教員を補助する形で「業界を知るセミナー」(全7回シリーズ)を実施

した。「業界を知るセミナー」は、学生にとって馴染みの薄い業界や学生が実態をきちんと把握していないような業界から企業人を招いて話をしてもらい、学生の視野を広げること、および、仕事の正確な知識を持つことを目的として実施した。

2つ目のアプローチは、学生にキメの細かい支援を行うことである。具体的には個別相談のなかで、学生一人ひとりに合った就活支援をおこなって行くということである。この方法は、各々が異なる悩みや問題を抱え支援を必要としている学生にとっては心強い味方になっている。また、上記ゼミ単位での面接セミナーなどに対しては、学生と相談しながらオーダーメード的な対応ができる。これもキャリアアドバイザーによる就職活動支援の利点といえるであろう。

④当面の課題

グループ単位の指導を行う際、早まる就職活動開始を控えて実践的なノウハウを知りたいという学生のニーズにどう対応するかという問題がある。2005年度の「進路を考える」ワークショップは就活色を抑えたものであったが、2006年度は「就職活動準備ワークショップ」という名称でやや就活色を加えたセミナーを実施した。また、業界知識の不足を補う目的で「業界を知るセミナー」を開催した。このようなセミナーを今後どのような形式・内容で実施するのか、必ずしも就職だけではなく進路指導の枠組の中で、就職活動の状況と学生のニーズを見ながら検討し対応していくべき課題である。

また、個別相談のなかで就活指導をおこなっていくことは効果が大きい反面、キャリアアドバイザーにとっては相談業務の負担が増加し、就活以外の相談を必要とする学生への対応が疎かにならねない。また、時間的に他の業務とのやり繰りが厳しくなるので、どう効率化を図っていくかが課題となる。昨年は第1期生の就職活動支援で手探り状態であったが、今年は就職相談とそれ以外の相談を切り分ける試みを行っている。また、就職活動支援業務は、4年生の就活が終了する頃に

3年生の就活が始まるので、キャリアアドバイザーは通年で就職活動支援を行っていることになる。キャリアアドバイザーの業務負担をどのように抑制するかということも課題である。

(5) キャリアニュース発行

①発行状況

「キャリアニュース」はA4サイズ4ページの学部内情報紙で、2005年4月から2006年9月までに合計9回発行した。印刷予算の関係で4月と9月に発行するものはカラー印刷であるが、その他はモノクロ印刷である。記事の内容は概ね、教員紹介（1ページ目）、学生活動紹介・報告（2ページ目）、セミナー報告（3ページ目）、各種紹介・イベント告知等（4ページ目）となっている。

発行号数と発行日は次の通りである。17号（2005年4月1日）、18号（2005年5月13日）、19号（2005年6月14日）、20号（2005年9月26日）、21号（2005年11月7日）、22号（2005年12月12日）、23号（2006年4月1日）、24号（2006年6月1日）、25号（2006年9月20日）。

②課題

キャリアニュースは、本学部発足当時、学生とのコミュニケーション手段のひとつとしてキャリアアドバイザーが作成し発信したものである。その経緯からキャリアアドバイザーは編集に深く関わってきたが、1年生から4年生まで全学年が揃い、学生数も増え、創刊当時とは状況が異なってきている。キャリアニュースの位置づけを今後どのようにして行くかが検討課題である。

そのひとつの試みとして、従来の「キャリアアドバイザー編集」という形を、25号紙（2006年9月20日発行）から学生記者を含む「編集部」が編集するという形式に変えている。学部の機関紙としてどのような形が良いのか、ブログやホームページの活用や連動なども含めて検討課題である。

(6) 各種セミナー

①実施状況

キャリアアドバイザーが行っているセミナーは、就職活動関係以外には「資格セミナー」「留学セミナー」「教員セミナー」「日本語教師セミナー」等がある。これらのセミナーは原則として学生からのニーズに基づいて開催を決めている。学生からのニーズの汲み上げは相談業務の中で行われることが多い。

2005年4月～2006年9月における各種セミナーの実施状況は〔表6〕のとおりである。

〔表6〕実施セミナー一覧

実施日	セミナー名
2005年11月14日	資格セミナー
2005年11月15日	資格セミナー
2005年12月13日	留学セミナー
2006年4月14日	教員セミナー
2006年6月12日	日本語教師セミナー

②キャリアアドバイザーの留意点

キャリアアドバイザーは、複数の学生の相談の中から同じような問題や要望があった場合、同じニーズを抱えながら相談には来ない学生もいることを考え、情報提供を主とするセミナーを実施している。キャリアアドバイザーはこのニーズに気付く敏感さが必要である。セミナー開催にあたっては、対象学年が片寄らないことや、授業時間・時間割等との関係を配慮し多くの学生が出席しやすい時間帯に設定することが必要である。また、セミナーによっては内容を録画しDVDのライブラリーに加えて、セミナーに参加できなかった学生に便宜を与えるような方策もとっている。

(7) 学生自主活動の支援・育成

①キャリアアドバイザーの考え方

本学部の学生は入学時からキャリアに関心を持ち、何らかの自主活動を行いたいと考えていることが多い。そうした自主活動の相談を受けたとき、キャリアアドバイザーは学生と一緒に考えて考

え、プラン作りをサポートしている。そして、活動内容や趣旨がキャリア形成や学部の専門性と合致し、その自主活動の形が形成されてきたときには、担当教員を決めて学部公認の活動団体に認定してもらえよう支援している。

前向きな気持で物事に取り組む積極的な姿勢は本学部学生の特徴であり、その姿勢を伸ばすことがキャリア形成にとって非常に大切である。キャリアアドバイザーはこうした学生の活動を発掘し支援していくという役割を担っている。

②国際交流サークル

学生活動支援の中で比較的大きな比重を占めている活動が「国際交流サークル」である。本学部では留学生を支援するために、留学生1人に対して日本人学生1人がマンツーマンで個別相談に応じるという「チューター制度」を2004年度に導入したが、学生同士の相性などの問題もあり実際には活動自体がうまく機能しているとは言えなかった。そこで、2005年度からは1対1で支援するのではなく、サークルとして集団で留学生を支援することとなり、学生の自主グループ「国際交流サークルCareer Oriental Member」（略称：COM）が発足した。

COMの発足により日本人が留学生を支援するというスタンスだけではなく、留学生からも日本人学生に情報を発信し、また、日本人同士、留学生同士の出会いの場になり、国籍を超えて交流することができるようになった。

COMの活動状況は次の通りである。

- ・2005年度活動：留学生向け履修相談会・ハングル講座・中国語講座・前期テスト相談会・食文化交流・情報交換会
- ・2006年度活動：留学生顔合わせ会・履修相談会・ハングル講座・中国語講座・テスト相談会・情報交換会・ゆかた着付・食文化交流会・タイ式マッサージ講習

③その他の学生自主活動

国際交流サークル以外に活動中の主な学生自主

活動には次のような活動がある。

- a. 自主討論会（名称『じじわ』）：人と話してそれを深めていくことで、自分ひとりでは考えつかないヒラメキや発見を見つけ出すために企画された討論会。2005年度の前期と後期に各1回ずつ開催された。第1回目のテーマは「学生生活について」、第2回目のテーマは「自立」であった。
- b. 高大連携（名称『Aitoc』）：高校生のキャリアデザインを支援しているサークルで、高校生のキャリア支援をすることによって共に成長する関係を築きたいと考えている。正式名称は「Assist In Thinking Of Career」で2005年11月に発足した。
- c. 異文化交流（名称『No Border』）：本学部生が主体となり、日本人・在日コリアン・ネイティブコリアンの学生達が2005年11月に立ち上げたサークル。異文化背景を持つ仲間で「共同で何かできれば」という強い思いから設立された。国際交流サークル（COM）と合同で昼休みに「ハングル講座」を開催している。
- d. 映像サークル（名称『Glory Bridge』）：映像という視点からキャリアデザインにアプローチするサークルで、2006年10月に発足した。“育てるコミュニケーション”をテーマとし、映像制作における人材育成サポートを中心に活動を進めている。
- e. ホームページ制作委員会：本学部は学生生活が盛んで色々な団体が数多くあるために、情報が散在してしまっている。そこで、情報をまとめ学部全体にその効果を広げて行こうということで2006年9月に発足した。翌10月にゼミ紹介イベントを契機にブログ「C-Wave」(http://blogs.yahoo.co.jp/hosei_c_wave)をオープンさせた。

(8) その他のキャリアアドバイザー業務

その他、教員の補助業務やキャリアアドバイザー自身の管理業務としてつぎのような業務がある。

- ①教員の補助業務：オープンキャンパス支援、ゼミ・公開授業の支援・補助、キャリアデザイン学会の補助、学部イベント応援、教員合宿参加
- ②情報収集・提供業務：キャリアセンター情報の提供、公的就職支援機関の情報・資料の収集・提供、参考書籍・雑誌の選定・購入、キャリアアドバイザー活動状況の発信
- ③自己啓発：セミナー資料作成、相談事例研究会実施、外部セミナー参加、関係学会参加、紀要執筆
- ④定例業務：業務報告作成（毎日）、定例ミーティング（毎週）、出勤管理・報告（毎日）

4. まとめ

先に述べたようにキャリアアドバイザーは、教員や事務職員とは違った側面から学生に接する専門職である。そして、学生を育て、能力を発揮できるように教員や事務職員と一緒に力をあわせて活動して行く存在である。こうしたキャリアアドバイザーの役割には2つの分野があると考えられる。一つの分野は、学生がキャリアについて学び、考え、自己の持つ能力を開花させ発揮できるようにさまざまなサポートを行っていくことである。キャリアアドバイザーが今までに実施してきた業務の多くはこの範疇にある。この分野の業務は、カウンセリングを中心におくキャリアアドバイザーが果たすべき基本的な役割であり、かつ、学生との日常的な接触を通じて、その考え方や行動様式を知り、新しい提案を行っていく創造的な仕事でもある。

もうひとつの分野は、本学部の教育目的であるキャリアデザインマインド構築の育成を担うことである。本学部では、「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」で採択されたプログラムにより、2007年度入学学生から「キャリア相談事前指導」「キャリア相談実習」が必修科目となる。それに伴って、3名の「キャリア相談アドバイザー」が新たに任命された。キャリア相談アドバイザーは、上記の科目の企画・運営を通じて教員を補佐し、

学生の自主性・問題解決能力を引き出す役割を担当することになる。

このように、キャリアアドバイザーの仕事は実践教育の場での専門職としての展開も見せはじめている。学部開設3年半を経て、本学部のキャリアアドバイザーは学生と共に成長し、更なる進化に向って一歩を踏み出したところである。

注

(1) キャリアデザイン学部発足時におけるキャリアアドバイザーの取り組み、および、コンセプトについては、小玉小百合(2005)『〈報告〉法政大学キャリアデザイン学部における低学年からのキャリア形成支援

の現状と課題』生涯学習とキャリアデザイン・2004年度法政大学キャリアデザイン学会紀要Vol.2 p.91～p.102参照。

(2) 本学部のキャリアアドバイザーの身分は事務職員の範疇に入るが、業務は独立しており、教員合宿への参加や学部紀要への投稿が認められているなど、一部教員に近い待遇もなされている専門職である。キャリアアドバイザーの身分は大学によって異なり教員職と事務職のところがあるが、他の大学の状況については、三木善彦・黒木賢一編(2000)『カウンセラーの仕事』朱鷺書房 p.109～p.126参照。

(3) 蟻川純子(2006)『生きた言葉は人を変える』大誠社 p.159～p.160参照。